

—牧師室から—

ファリサイ派の人々がイエス・キリストに「神の国はいつ来るのか」と尋ねた。神の国とは、神ご自身が神の愛と正義と公平をもって支配される所のことである。イスラエルの民はメシアの到来による神の国を熱望していた。それはアッシリヤ、バビロン、ベルシャギリシャ、シリアそしてローマと何百年にわたり他国の占領支配を受けてきたからである。地獄を見た者だけが天国を望む。彼らは屈辱の中で神の国の到来を待ち続け、その時はいつかと問うた。その間にイエス・キリストは、まず「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない」と答えられた。ファリサイ派の人々が隆盛を極めたダビデ、ソロモン王時代のような地上的復権を望んでいたのに対し、イエス・キリストは、神の国は権力と軍事力で勝ち取れるものではないと語られた。私はこの言葉は深い人間の罪とわっていると思う。弓削達先生の言葉で言えば、時代を支配する「中心」が

形成されれば、必ず抑圧、差別される「周辺」ができる。その「周辺」が「中心」に踊りできれば、歴史が救われるかと言うと、そうではなく新しい「周辺」が生れる。人間の罪によって、愛と正義と公平が行き渡る神の国を見ることはできないだろう。イエス・キリストは権利が奪われていた「周辺」に立って、彼らの生の尊厳を神にあって宣言された。

では、神の国は来ないのか。イエス・キリストは、次に「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」と語られた。イエス・キリストを見て信じて、従う者は変革、神による新生が約束されている。この信仰者の中にイエス・キリストはおられ「その所、その時」を神の国にしてくださっている。この信仰は自分がどんなに破れていようとも、歴史がどんなに悲惨であろうとも、尚神の国を目指す者とされる。私たちはイエス・キリストに永遠の神を見て、信仰において結びつき「永遠の今」を生かされている。これがクリスチャンの最も深い喜びであり力である。

週 報

1992年3月8日 復活前第6主日

巻 12 49号

1991年度教会主題

「神の国は私たちの間にある」

聖句 ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。

ルカによる福音書 17章20節～21節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集會を守る。
 2. 新會堂を獻げ、共に宣教に勵む。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29
電話 045-833-5323、045-833-6616
振替 横浜 9-13994

牧師 秋 吉 隆 雄